



秋の旧長谷川治郎兵衛家離れ座敷と庭園

暑い夏が終わり、時折り涼しい風が吹く過ごしやすい季節となりましたね。

秋が深まると旧長谷川治郎兵衛家の庭園が鮮やかに色づき、訪問者の目を楽ませてください。

写真は、その離れ座敷上空からの庭園の様子。点々とつづく飛び石と樹木が宝石箱のように美しい模様を織りなしています。

ぜひ、皆さんもこの秋にご訪問いただき、ゆっくりとこの景色をお楽しみください。



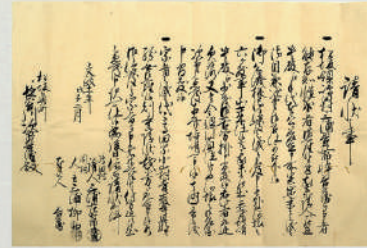
今回の展示のみどころ!

旧長谷川治郎兵衛家

長谷川家の奉公人たち

令和4年9月20日(火)～12月18日(日)

江戸店持ちの豪商 長谷川家に雇われた奉公人(従業員)のほとんどは伊勢国出身者でした。こうした奉公人は、子供のときから雇われ、家訓にしたがい、商売の仕方を学びました。彼らは年齢や能力により子供衆・手代・支配人などといった序列があり、支配人まで残る人はごくわずかでした。本企画展では、長谷川家を支えた奉公人たちの業務内容や生活の様子に迫ります。



奉公人請状【安永9年(1780)】

奉公人請状とは、雇用されるに際して奉公人が雇主へ提出しなければならない身元保証書のことである。

旧小津清左衛門家

三井高利生誕400年・三井越後屋創業350年関連企画

松阪ゆかりの豪商 三井家の歴史

令和4年10月20日(木)～令和5年1月22日(日)

江戸時代より日本経済において大きな存在である三井。その家祖 三井高利は松阪で生まれました。今年はその高利の生誕400年であり、また来年は、高利が「三井越後屋」を創業して350年という節目の年でもあります。そこで本企画展では、三井に関係するさまざまな資料を通して松阪にゆかりのある三井家を紹介します。



東都三井店之図【天保7年(1836)】(西方寺蔵)

江戸駿河町の三井店が描かれた絵馬。松阪地域出身で三井越後屋に奉公した人たちが奉納した。

原田二郎旧宅

紀州藩の歴史書『南紀徳川史』

令和4年11月29日(火)～令和5年4月2日(日)

『南紀徳川史』は、紀州藩士の堀内信が編纂した170巻にも及ぶ紀州徳川家の歴史書です。同書には、初代藩主徳川頼宣が元和5年(1619)に和歌山に移封してから14代茂承が東京転住に至る253年間の紀州徳川家の歴史や法制などが記されています。そのなかには勢州領下の松阪に関する記述もあります。本企画展では、紀州藩の歴史書『南紀徳川史』を紹介します。



『南紀徳川史』(明治期)(松阪市郷土資料室蔵)

『南紀徳川史』16巻には紀州藩での儀式、儀礼などで着る服装が挿絵付で事細かに紹介されている。

秋のイベント始まるよ～

11月

- ◆ 3日(祝) 10:00～15:00 氏郷市民茶会 **はせがわ** **おづ**
旧家のお座敷でご一服いかがですか。各300円(入館料は無料です)
- ◆ 5日(土) 14:30～ 旧家で聞こう秋の朗読 **はせがわ**
大人も子どもも楽しめる名作文学を松阪お話キャラバンが朗読します。
- ◆ 6日(日)～20日(日) 松阪カルチャー ストリート **はせがわ** **おづ** **はらだ**
「おうちで飾りたい! 作家を応援したい!」を叶える芸術祭、そのメイン会場として数々の作品を展示します。
- ◆ 13日(日) 松阪もめんの展示 **はせがわ** **おづ**
2022全国コットンサミットin松阪と同日に開催される松阪もめんフェスティバルとして木綿作品を展示します。
- ◆ 26日(土) 17:45～ ギターコンサート **おづ**
市内でギター教室を営まれているギタリスト松野世志則さんのコンサートです。500円

12月

- ◆ 2日(金)・3日(土) 17:30～ ナイトツアー **はせがわ**
竹輝銅庵の竹本博志氏手作りの竹灯りの展示やライトアップされた紅葉が映える庭など普段とは違う旧長谷川邸内をガイドと共に巡ります。
- ◆ 4日(日) 17:30～ 旧家で楽しむ秋の夜長 詩吟を聴こう! **はせがわ**
津市美杉町下之川で地域医療にご尽力されている洗心福祉会美杉クリニックの院長であり、また詩吟の関心流奥伝教師でもあられる田島麟芳さんに健康の話と吟詠をしていただきます。500円

◇お問合せ先 旧長谷川次郎兵衛家事務所

トピックス

くずし字講座を開催しました

6月23日から9月22日まで、4回にわたって、くずし字講座を開催しました。テキストは、女性の日常生活に必要な知識や作法などがくずし字で記された『女重宝記』。学習を進めていくなかで、くずし字や江戸時代の女性の諸相の理解が深まり、受講者の皆様も大変満足された様子でした。



「ちびっ子商人塾」開講しました

三井高利生誕400年記念イベント「ちびっ子商人塾」を開講しました。テーマは、「めざせ! 商いの達人三井高利」。第1回は、旧小津家の向座敷で牛銀本店小林甲児社長にお話をいただきました。



長谷川元貞と雅号

「雅号」とは、書家・画家などが書画作成の際に署名や落款に使う本名以外の名のことです。

長谷川家でも多くの当主が雅号を持っていますが、なかでも、ひときわ文芸に秀でた8代元貞の雅号は「六有齋」、「六有」、「梅窓」、「環翠亭」などが確認されています。

これらの雅号は付けられた経緯は不明でしたが、企画展資料の調査過程で、長谷川家に残る巻物「六有齋記」に「六有齋」の由来を発見することができました。

「六有齋記」は、藩校 松坂学問所の督学として招かれた紀州藩儒官の川合春川が、文化12年（1815）に元貞の求めに応じて記した書です。これによると、元貞の雅号「六有齋」は、中国北宋の儒学者張載（横渠）が唱えた「六有」説に基づいて命名されたことが判ります。「六有」とは、人が日常身に行う6つの事「言有教・動有法・昼有為・宵有得・息有養・瞬有存」で、寸刻も怠らぬ修養のことを指すとされています。

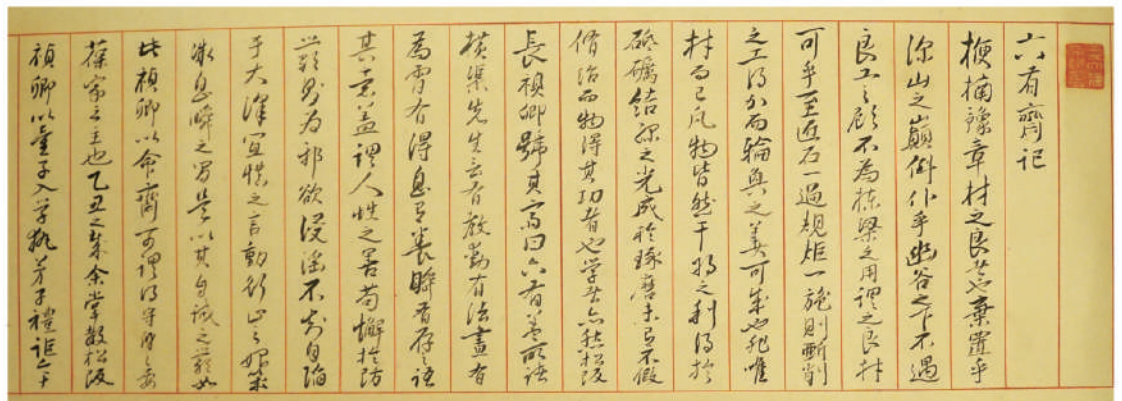


元貞は歌を本居春庭、茶を裏千家10代認得齋、11代玄々齋、書を市河米庵、巻菱湖に学び、俳諧、漢詩にも通じていました。自ら作成した書画などに「六有齋」と書き記す度に、「六有」を自戒として心に刻む元貞の真摯な人柄が伺えます。

「六有齋記」は、原田二郎旧宅企画展「紀州藩校松坂学問所」（11月27日まで開催）で展示中です。是非、実物の資料をご覧ください、元貞の想いを共有していただければ幸いです。（中戸）



【蔵書印】



【六有齋記】

歴史文化3施設のご案内

【開館時間】 9:00~17:00

(16:30までにご入館ください)

【休館】 水曜日（祝日の場合は翌平日）
／年末・年始

【連絡先】

◆旧長谷川治郎兵衛家

Phone: 0598-21-8600

◆旧小津清左衛門家

Phone: 0598-21-4331

◆原田二郎旧宅

Phone: 0598-23-1656

発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 松阪市魚町1653

Phone: 0598-21-8600（事務所）

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

HP https://matsusaka-rekibun.com/

